

経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県備前市 備前病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	15	-	ド透	救 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
35,293	7,566	第2種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

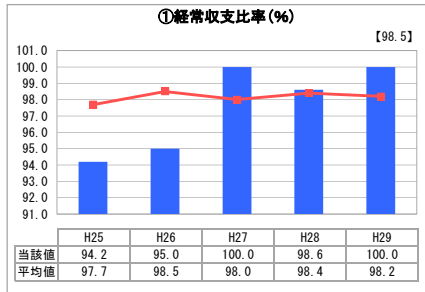
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
46	44	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	90
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
46	44	90

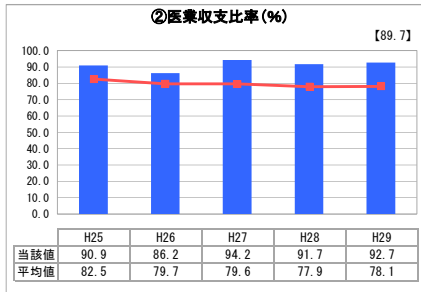
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

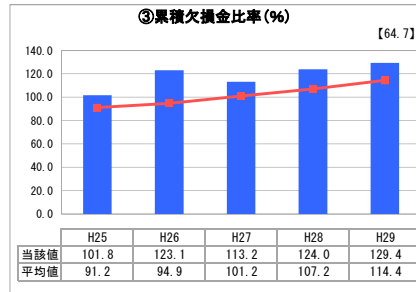
1. 経営の健全性・効率性



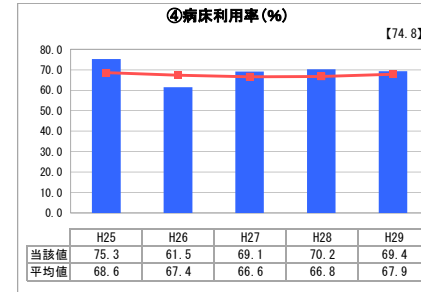
「経常損益」



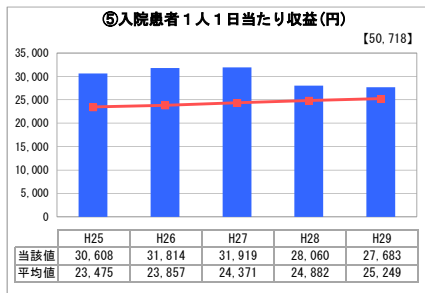
「医業損益」



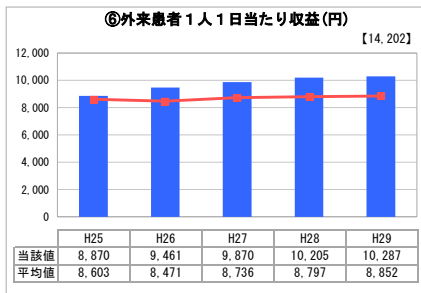
「累積欠損」



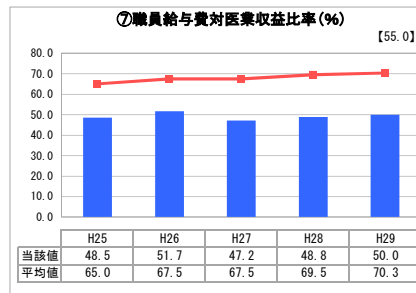
「施設の効率性」



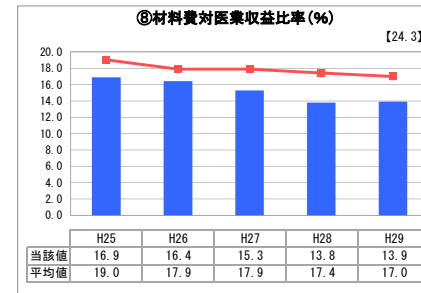
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

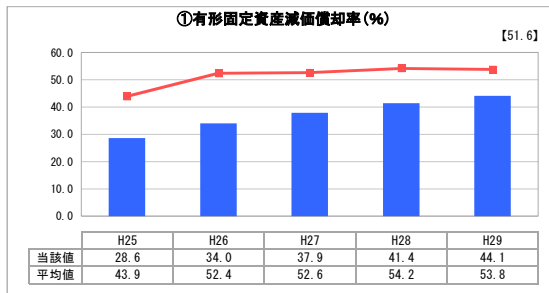


「費用の効率性①」

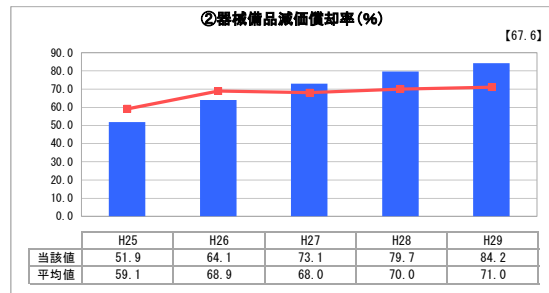


「費用の効率性②」

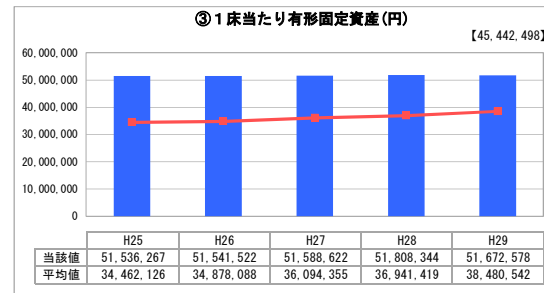
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

自治体病院として、行政、医療機関、介護施設と連携し、地域に必要な医療を公平・公正に提供するとともに、国保直診の目指す地域包括ケアの観点から、回復期を担う地域包括ケア病床、慢性期を担う療養病床の設置、リハビリテーションの充実、人工透析医療（16床）や各種健診事業のほか、介護保険事業として、介護老人保健施設（80床）、通所リハビリテーション事業（定員30人）、居宅介護支援事業、訪問看護ステーション事業も展開している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②医業収支比率ともに類似病院平均値及び全国平均値を上回り、繰入金への依存度も比較的低い状態である。
③累積欠損比率は、過去の赤字が積み重なった結果、非常に高く、改善のためには黒字の年度を継続して行く必要がある。
④病床利用率は、類似病院平均値を上回っているものの、多くの年度で70%を下回っており、経営安定のためにもこの数値を向上させていく必要がある。
⑤⑥の入院外来それぞれの1人1日当たり収益は、透析医療をしている影響で、類似病院平均値より若干高い傾向にあると考える。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似病院平均値より低い状況にあるが、これは平成23年度の病院建て替えから年数がさほど経過していないことによるものであると考えられる。ただ、徐々に数値は増加している。
②器械備品減価償却率は、類似病院平均値より高く、医療機器類の老朽化が進んでいると考えるが、頻繁な機器更新は経営を圧迫するため、定期的な保守を実施しながら、適切に使用できる状態を保持することに努める。
③1床当たり有形固定資産は、類似病院平均値より高くなっているが、併設の老人保健施設の償却資産が含まれているためであり、病院単体では平均値に近い値になると考える。

全体総括

市の人口は年々減少しているが、利用者を選択される病院となることで、患者数の確保をしていく必要がある。
今後は、備前市病院事業改革プランに掲げた取組事項を地道に実践することで、持続可能な経営を目指し改善に努める。
具体的には、地域包括ケアの観点から、回復期を担う地域包括ケア病床、慢性期を担う療養病床やリハビリテーションを充実させるとともに、地域の診療所や隣接地域の急性期病院との連携、協力を図り、地域医療全体の充実に取りむくことで、利用者のニーズに応えられるよう努める。
医師不足の問題については、都市圏の大病院から派遣を受け、診療科の充実と受け入れ可能な患者の幅を広げていくことで改善を目指す。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県備前市 日生病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド訓	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
35,293	6,545	第2種該当	10:1	

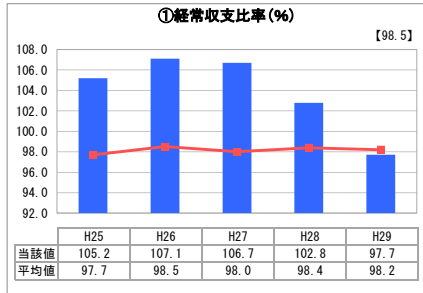
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地域医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

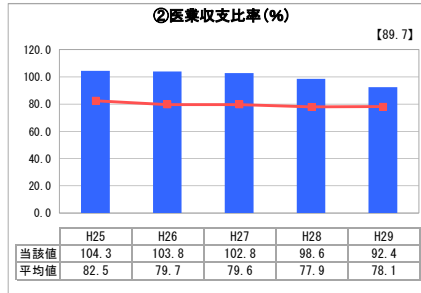
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
40	52	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	92
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
40	52	92

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

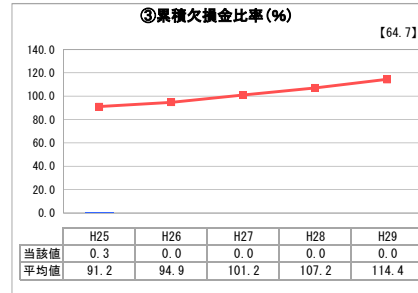
1. 経営の健全性・効率性



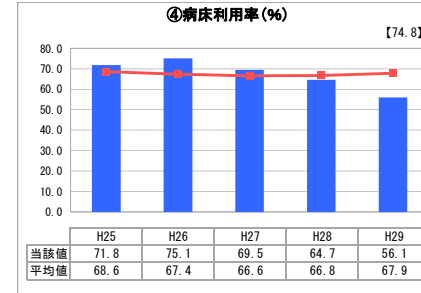
「経常損益」



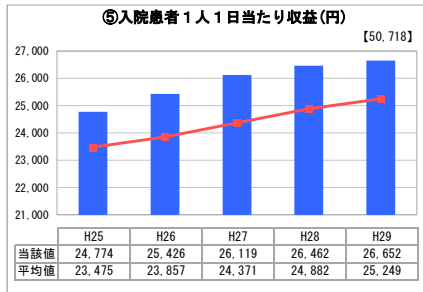
「医業損益」



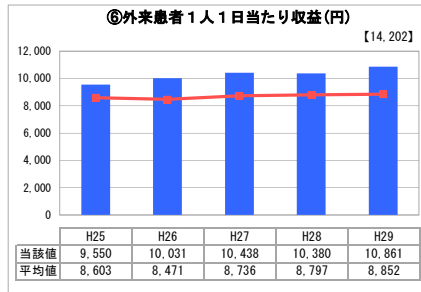
「累積欠損」



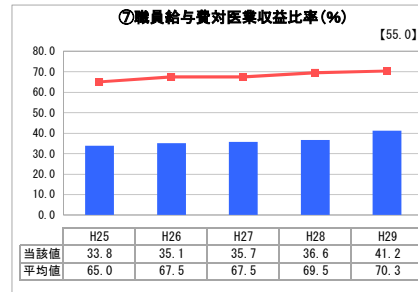
「施設の効率性」



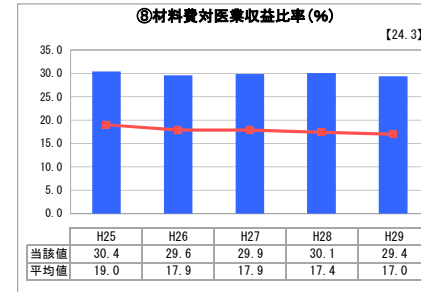
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

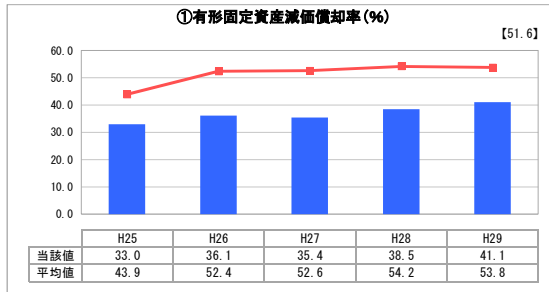


「費用の効率性①」

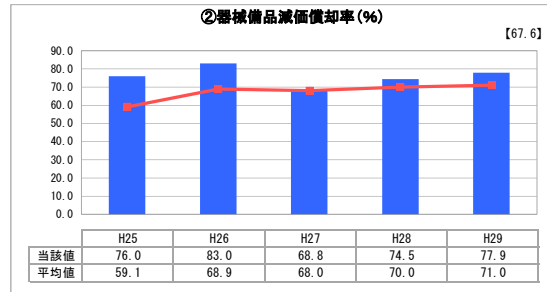


「費用の効率性②」

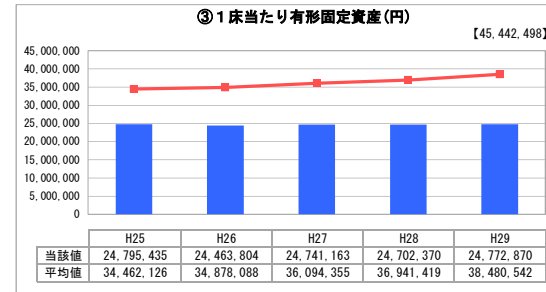
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当院は、救急告示施設、病院群輪番制等二次救急医療機関として救急医療を提供するとともに、入院機能を持つ医療機関として、急性期から慢性期の幅広い病床機能を提供する役割を担っている。人間ドックや特定健診等を積極的に受け入れることで地域における予防医療の推進に務めている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

④病床利用率の低下は、前年度中途に常勤医師の退職による患者数の減少に伴うものである。これに伴い、①経常収支比率が100%を下回った。⑧材料費対医業収益比率は、類似病院平均値より高い状況にあるが、これは当院が院内薬局となっていることから、薬品等に係る費用が大きいため要因と考えられる。少子高齢化の進行や大幅な人口減少により、今後は地域医療の需要が大きく変化することが予想される。今後の人口動向、高齢化率及び病床利用率等を注視し、適正な病床数及び病床機能を検討するとともに、慢性期を担う療養病床やリハビリテーションの充実を図り、患者のニーズに応える病院として、その機能を充実させることにより、効率的な病院経営に努めたい。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似病院平均値より低い。これは、平成18年度の病院建設から年数がさほど経過していないことが要因と考えられる。②器械備品減価償却率は、類似病院平均値より高い。これは、医療機器の老朽化が進んでいることが要因と考えられる。建設から10年以上が経過し、随所に老朽化等による修繕の必要が生じているため、今後は、予測される大規模修繕等に備える必要がある。

全体総括

患者の病状を的確に把握し、より専門的な治療が必要な場合は最適な医療機関に繋ぎ、容体が安定した後は当院での治療を継続していくといった「身の丈にあった診療」を常に心がけ、かかりつけ病院としての役割を果たすことで、これからも地域住民に信頼され、必要とされる病院であり続けるよう努める。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県備前市 吉永病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	19	-	ド透	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
35,293	5,550	第2種該当	10:1	

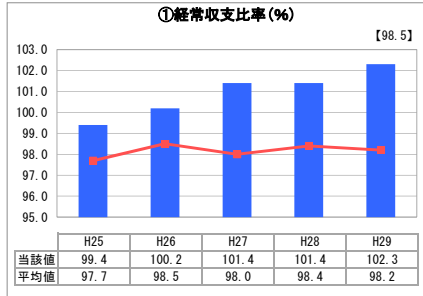
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

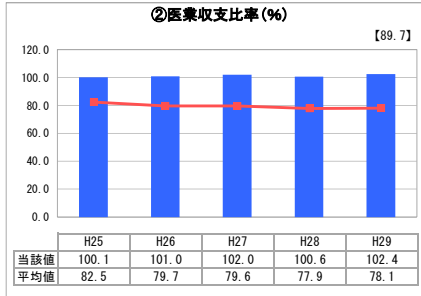
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
50	-	50

■ 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

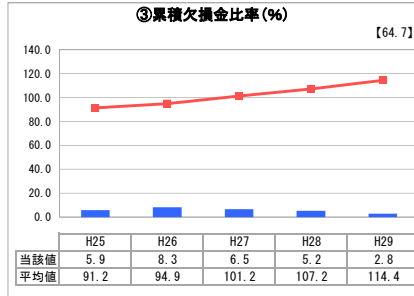
1. 経営の健全性・効率性



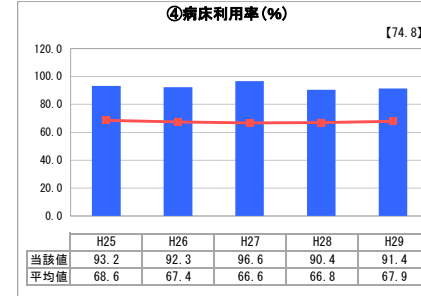
「経常損益」



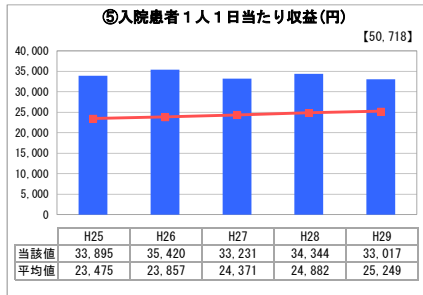
「医業損益」



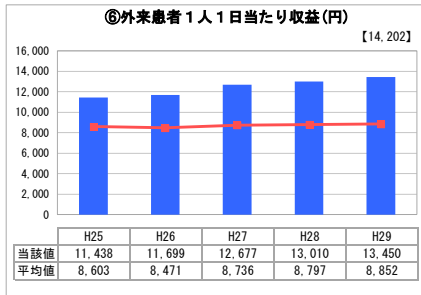
「累積欠損」



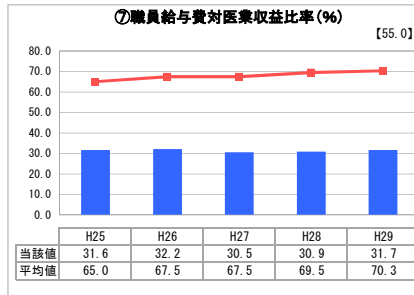
「施設の効率性」



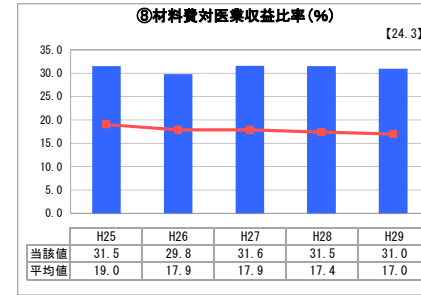
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

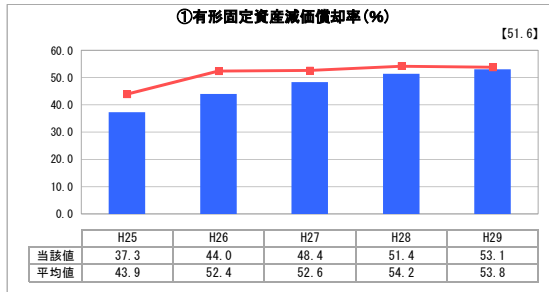


「費用の効率性①」

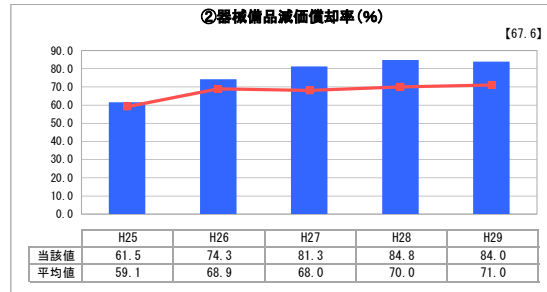


「費用の効率性②」

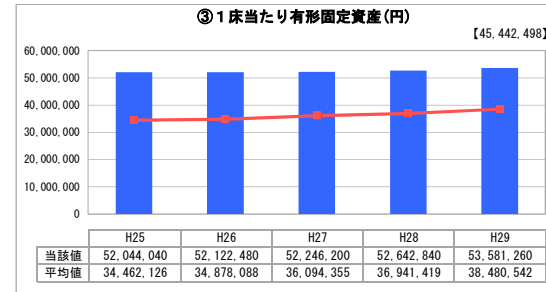
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

土曜日診療や午後9時までの夜間受付など地域医療の中核的機能を担っている。
 具体的には、救急医療、へき地医療、小児医療、人工透析医療、在宅医療、各種健診事業、高度医療機器の設置、保健衛生活動、学校医活動など幅広い機能を提供している。
 また、総合保健施設を併設し、地域包括ケアの観点から、通所リハビリテーション事業、居宅介護支援事業、訪問リハビリテーション事業、訪問看護事業などの介護保険事業も展開している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①②③④⑤⑥⑦の各指標は、類似病院平均値を上回っており、健全な経営を維持している。
 ⑧材料費対医業収益比率は、類似病院平均値を下回っているが、当院は院内薬局での運用しており、類似病院平均値は、院外薬局で運用している病院も含めた数値であることから、特に問題はないと考える。
 ③累積欠損金比率は、施設の建替えで発生した欠損金であり、現在の経営状態を維持することで、早期に解消できると考える。
 今後は少子高齢化がさらに進むと見込まれ、将来的に限られた医療資源を効果的に活用するため、地域の医療ニーズに応じて柔軟に病床を機能分化するなど、地域に密着した病院を目指す。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、施設が比較的新しいこともあり、類似病院平均値より若干低くなっている。
 ②器械備品減価償却率は、定期的な保守を実施し適切に使用できる状態を保持することで、法定耐用年数での更新を行っていないため、類似病院平均値より高くなっている。
 ③1床当たり有形固定資産は、50床という小規模病院としては診療科が19科と多く、医療機器も充実していることが、類似病院平均値より高い要因であると考えられる。

全体総括

当院の強みである1日平均の外来患者数300人以上と病床利用率90%以上を維持するため、今後予想される人口減少などの問題に備え、ホームページの充実など広報活動にも注力し、選ばれた病院を目指す。救急医療についても24時間体制での受入を継続する。
 また、地域包括ケアの観点からは、総合保健施設を併設し、通所リハビリテーション事業、居宅介護支援事業、訪問リハビリテーション事業、訪問看護事業などの介護保険事業の維持に加え、地域における地域包括ケアシステムの中核として、地域内の他の診療施設や、周辺地域の急性期病院等と連携しながら地域完結型の医療を目指す。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。